

昭和五十六年五月招集

第二回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會

目次

日時、場所	二
出席議員、欠席議員	二
出席説明員	二
出席事務局職員	二
議事日程	二
開会	二
議長の報告	二
会議録署名議員の指名	三
会期の決定	三
議案第三十二号乃至議案第三十五号	三
提案理由の説明	三
石井武敏君の質疑、当局の応答（議案第三十二号）	五
神田守隆君の質疑、当局の応答（ 委員 会付託の省略）	一〇
委員 会付託の省略（ 採 決）	一一
委員 会付託の省略（議案第三十三号）	一一
採 決（ 議案第三十四号）	一一
石井武敏君の質疑、当局の応答（ 神田守隆君の質疑、当局の応答）	一二
委員 会付託の省略（ 採 決）	一四
委員 会付託の省略（ 採 決）	一五
石井武敏君の質疑、当局の応答（議案第三十五号）	一五
横溝 功君の質疑、当局の応答（ 採 決）	二〇

委員 会付託の省略（議案第三十五号）	二一
採 決（ 日程の追加・議長辞職について 五十嵐 昇君のあいさつ 日程の追加・議長の選挙 議長のあいさつ 日程の追加・副議長辞職について 菊井敏博君のあいさつ 日程の追加・副議長の選挙 副議長のあいさつ 日程の追加・安房郡市広城市町村園事務組合議会議員 の補欠選挙 日程の追加・千葉県競輪組合議会議員の補欠選挙 日程の追加・安房南部伝染病隔離病舎組合議会議員の 補欠選挙 日程の追加・館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合 議会議員の補欠選挙 日程の追加・三芳水道企業団議会議員の補欠選挙 日程の追加・常任委員会委員の選任 会議時間の延長 日程の追加・議案第三十六号 内容説明 委員 会付託の省略 採 決	二一 二一 二二 二三 二三 二三 二三 二四 二四 二五 二六 二六 二七 二七 二八 二九 三〇 三〇 三〇 三一 三一 三一
閉 会	三一

一、昭和五十六年五月八日(金曜日)午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一 番	神 田 守 隆	二 番	石 井 謙 謀
四 番	横 溝 功	五 番	福 原 勳
七 番	古 賀 礼 四 郎	八 番	石 井 昌 治
九 番	松 下 正 己	一 番	林 豊 治
一 二 番	栗 原 一 雄	一 三 番	近 藤 好 雄
一 四 番	渡 辺 昭 夫	一 五 番	伊 藤 幸 太 郎
一 六 番	押 元 稔	一 七 番	黒 川 平 治
一 八 番	流 山 源 次 郎	一 九 番	石 井 輝 久
二 〇 番	石 井 武 敏	二 一 番	吉 田 勇 治 郎
二 二 番	藤 田 益 治	二 三 番	菊 井 敏 博
二 四 番	和 田 一 郎	二 五 番	五十 嵐 昇
二 六 番	伊 賀 多 朗	二 七 番	石 井 正
二 八 番	安 澤 徳 順	二 九 番	安 西 益 男
三 〇 番	山 口 康		

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

市 長	半 澤 良 一	助 役	小 倉 澄 男
取 入 役	太 田 博 雄	総 務 部 長	石 田 雄 一
民 生 部 長	鈴 木 力	経 済 部 長	山 田 俊 康
一、出席事務局職員			
事 務 局 長	高 尾 豊	事 務 局 長 補 佐	熊 谷 吉 雄
書 記	兵 藤 恭 一	書 記	鈴 木 哲

書 記 石 井 一 夫 書 記 嶋 田 範 夫

一、議事日程

昭和五十六年五月八日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

議案第三十二号 館山市市税条例の一部を改正する条

例の専決処分の承認について

議案第三十三号 館山市市税条例の一部を改正する条

例の制定について

議案第三十四号 市営土地改良事業施行の変更につい

て

議案第三十五号 昭和五十六年度館山市一般会計補正

予算(第二号)

開 会 午前十時六分開会

○議長(五十嵐 昇君) 本日の出席議員数二十七名、これより昭和五十六年第二回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議 長 の 報 告

○議長(五十嵐 昇君) 本臨時会議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

議 案 の 配 付

○議長（五十嵐 昇君） ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたしました。

配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

四番議員横溝 功君、三〇番議員山口 康君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長（五十嵐 昇君） 日程第二、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき、議会運営協議会の意見は五月八日及び九日の二日間ということとあります。

お諮りいたします。会期を二日間と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって会期は五月八日及び九日の二日間と決定いたしました。

議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第三、議案第三十二号乃至議案第三十五号の各議案を一括して議題といたします。

提案理由の説明

○議長（五十嵐 昇君） これより各議案の提案理由の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日、ここに急遽第二回市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆さま方におかれましては御多忙の中を御出席賜り、誠にありがとうございます。

今回、提案いたします案件は、条例関係議案一件、一般議案二件、補正予算一件であります。

以下、その概要について御説明申し上げます。

まず、議案第三十二号館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分承認についてであります。去る三月、地方税法の一部を改正する法律案が国会において可決され、三月三十一日公布。四月一日から施行されることとなりました結果、館山市市税条例もこの法律改正に合わせて急遽改正する必要が生じたため、同条例の一部改正を地方自治法第七十九条第一項の規定により専決処分いたしましたので、議会に報告し、この承認を求めようとするものであります。

今回の地方税法の改正の主な内容は、個人の市民税については、低所得者層の負担の軽減を図るため、昭和五十六年度限りの措置として、一定の所得以下の者の所得割を非課税とすることとあります。一定の所得以下と申しますのは、本人、控除対象配偶者及び扶養親族の合計数に二十七万円を乗じて得た金額以下ということとでありまして、夫婦、子二人の給与所得者の非課税限度額は百

七十五万七千円となります。改正前の課税最低限は百五十八万四千円であります。

法人市民税については、法人の均等割の税率適用区分の基準は改正前は資本の金額または出資金額とされていますが、これに資本金額を加えたものとするに改正されました。

固定資産税については、新築住宅に係る固定資産税の減額措置について、改正前は床面積百平方メートル以下とされておりまして、これを、床面積四十平方メートル以上百六十五平方メートル以下に改め、百平方メートルまでを減額対象とするものであります。軽自動車税については、課税の簡素合理化を図るため、月割課税制度を廃止することであります。

以上が地方税法の主な改正点でありますが、この法律改正に基づきまして館山市市税条例の一部を改正いたしました。詳細につきましては、説明資料により御了承賜りたいと存じます。

次に、議案第三十三号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてであります。地方税法の改正のうち、その施行期日が七月一日または八月一日とされている部分について、市税条例の一部を改正しようとするもので、その内容は、市民税の法人税割の税率の改正と、不動産取得税の標準税率の引き上げに伴う特別土地保有税算定の一部改正が主なものであります。法人税割につきましては、税率の引き上げの改正と現行条例の附則で規定している不均一課税を本文規定に移行し、期間の定めを廃止しようとするものであります。詳細につきましては、説明資料により御了承賜りたいと存じます。

次に、議案第三十四号市営土地改良事業施行の変更についてで

ありますが、この事業の施行については、昭和五十四年十二月十五日定例市議会の議決をいただきました農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業でありまして、昭和五十五年より千葉県に委託し工事を施行してまいりましたが、県の事情により昭和五十六年度以降の施行については、千葉県または千葉県農業開発公社に委託し、工事を施行しようとするものであります。

次に、議案第三十五号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算第二号であります。歳入歳出予算の補正としまして、歳入歳出それぞれ三千二百万円を追加し、歳入歳出それぞれ九十二億千二百八十三万八千円としようとするものであります。これは、衛生センター真倉側搬入道路の切土法面が風化しやすい砂岩質のため現状のままですと崩落するおそれがありますので、これを防止するため保護工事費として三千二百万円の追加をするともに、継続費の補正をお願いするものであります。この追加補正財源としましては、前年度剰余金をもって充当しようとするものであります。

以上、提案理由について御説明申し上げましたが、いずれの案件も急務を要するものでありますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明を終ります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で提案理由の説明を終ります。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） これより各議案の審議を行います。

まず、議案第三十二号館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について御質疑を願います。

〇二〇番（石井武敏君） 議案の第三十二号でございますが、御説明承りますと、地方税法の改正に伴うものでありますし、それに連動して当然出てくるべきものでありますし、また専決処分の期間的な、時期的なタイミング、これを取り立てて言う問題ではございませんが、課税をする場合にいろいろな考え方がありますが、課税が納税する側にとりい影響があるか、あるいは徴収する側に与算的にどうい影響を及ぼすか、あるいはこの改正がいろいろな社会的な状況とか、現在の物価のスライドの状況とか、市民生活の上から妥当な改正率であるか、改正の仕方であるか、こういった問題を含んでいると思っておりますので、地方税法の改正までにはかなりのいろいろな御検討があつて妥当な線がきていと思ひますので、そういう点で私は今回の質疑を通して妥当であるということを理解しておきたいために御質問申し上げる次第でございます。

今回の改正の内容を見ますと——質問はこの説明書によつて御質問していきたいと思ひますが、説明書の二ページでございます。今回のいわゆる個人市民税についての特別措置、「所得の金額が二十七万円に本人、控除対象配偶者及び扶養親族の合計数を乗じて得た金額以下の者について、所得割を非課税とする」というように、五十六年度限りの措置として載つてきているわけです。この裏づけとしてはどのように理解をしたらよろしいですか。御説明を承りたいと思ひわけでございます。

今回のこういったいわゆる改正によりまして、かなりの所得割に係る人たちが減じてくるような感じがするわけでありまして、そういう点でどのようにそれをとらえておりますか、御説明願ひ

たいと思ひます。

こうした税制の改正というのは、一つのパターンができてきますと大体その形に応じて何年も定着していくというあり方が当然でありますし、そうなつてきますので、改正当初でありますので、そのへんを理解しておきたいと思ひますので御説明願ひたいと思ひます。

それから、ともにここに書いてありますが、法人市民税についてでございます。これは均等割の利率を適用する場合の基準を、資本の金額または出資金額に今度は資本積立金額を加算するといふように書いてあります。おそろくいままでは資本金だけで法人市民税が算出されていたものと思われまして、それに今回からは資本積立金というものが加算されてくる、これはかなりの増収になるのではないかなというように直感をいたしますが、こういう点でいわゆる資本積立金を徴収する場合、積立金を掌握する場合、どういふように掌握なさつていくんでしょうか。その点をお答え願ひたいと思ひます。

それから、三ページの固定資産税の関係でございます。説明書によりますと、「新築住宅に係る固定資産税の減額措置の床面積要件を改正前一〇〇平方メートル以下であるのを四〇平方メートル以上一六五平方メートル以下に改め、一〇〇平方メートルまでを減額対象とする」ということとでございます。これはいままでも新築住宅をいろんな点で、税制上住宅を建てた場合に税額を緩和しようといふことからこういう減額措置がいままでもとられてきたわけでございますけれども、今回の改正を見ますと、特に面積が変わつてきているわけです。いわゆるいままでは百平方メートル以

下であった。ところが今回は四十平方メートルを削りまして、四十平方メートルから百六十五平方メートルということで上に伸ばしてあるわけです。これを見ますと、おそらく最近の建物は非常に大きくなってきて、百平方メートル以上のものが多くなっているということが感じられます。これは社会生活、家庭生活の多様化という現在の住民のニーズだと思えますし、百六十五平方メートルに広げる措置はいいと思います。

しかし、ここで考えられますことは、四十平方メートルまでを削っているんですが、四十平方メートルまでのものをなぜ削ったかということが理解できないわけです。といいますのは、増築をする場合、おそらく私は新築と同じ評価だと思っております。増築というのかなりあると思うんです。そうすれば増築の分、これが四十平方メートル以下のもを控除外にするわけです。対象外にしちゃうわけです。そこに問題が起きはしないかという懸念がありますので、そのへんの御説明をひとつお願いしたいと思います。

以上。

○総務部長（石田雄一君） 石井武敏議員の御質問三点あったわけですが、まず最初の非課税措置に対します考え方、個人市民税の点でございますけれども、現在住民税の課税最低限といえますのは、標準世帯の場合百五十八万四千円になっているわけでございます。五十五年度の生活保護基準、一級地の場合ですと百六十二万三千円という数字が出ておりまして、本市の場合これに見合ひ生活保護基準百二十二万八千四百円という数字がございます。五十六年度におきましては百三十二万八千八百八十四

円というのが館山市、三級地の生活保護基準でございますけれども、今回二十七万円に扶養親族の合計数をかけたものが課税最低限いわゆる非課税措置という意味での措置が購ぜられたわけでございますけれども、この百八万円、いわゆる二十七万円に標準世帯四人を掛けますと百八万の所得になるわけでございますけれども給与収入に換算いたしますと百七十五万七千円になるわけでございます。こうしたことを総合的に勘案してまいりますと、今回の改正では控除の改正をしなかったわけでございますけれども、引き上げをしなかったわけでございますけれども、ボーダーライン層との関係等々踏まえまして、五十六年度限りの措置としての所得割の非課税措置を講じたわけでございます。

それから、ボーダーライン層等々のからみの人数の掌握の点でございますけれども、現行の課税標準額五万円以下の納税義務者数を申し上げますと、本市の場合六百三十七名の納税義務者がいるわけでございますけれども、これを基準に入れ替わりがございまして、おおむね六百三十七人ぐらいの納税義務者が非課税の措置を受けるだろうというように解釈しております。このクラスの平均税額一人当たり五百二十四円というように数字でございます。

次に、二番目の質問でございます。法人均等割でございますけれども、資本積立金の額を加えるというように改正になっておりますけれども、この資本積立金額の中身というのは、たとえば額面超過金ですとか、払込剰余金、合併差益金、減価差益金といういろいろなものがありまして、いわゆる拠出資本としての性格を有しているわけでございます。したがって、従前の資本の金額また

出資金額のほかに資本積立金額のいま言いました拠出資本という性格に着目いたしまして今回課税をしていくと、税率を決定していくということでございますけれども、これにつきましては法人税等の関係もございまして、そこでの把握によつての課税になるわけでございます。

次に、三番目の固定資産税の関係で、新築住宅の関係での床面積要件でございますけれども、百平米以下の要件を四十平米以上百六十五平米以下というランクを設けたわけでございますけれども、これにつきましては最近の住宅事情の好転というよりなこともございまして、たとえば四十平米以下の住宅規模を見ますと、一DK未満の住宅というのが規模のようでございます。百六十五平米以上となりますと、八LDKの住宅の規模でございまして、住宅、宅地審議会の答申等々を踏まえましても、このランクに属する床面積要件を減額対象とするのが妥当であるというよりな床面積上での基準を出されておりますので、今回の改正になったわけでございます。

以上でございます。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御説明を受けましたけれども、確かに前年度まで——説明書によりまして、いまの御説明にもありましたけれども、個人市民税の関係ですが、所得でございますが、前年度まで百五十八万四千円が今回百七十五万七千円ということでラインが上がってきているわけでございます。それはわかりませんが、しかし今回の改正の違ひ点は、いままでの改正と特に違ひた点、それはいままで控除の額をそのまま上げていったのに対し、今回は二十七万円を人数に乘ずるというところが大変違ひ

てきていると私は思うんです。となりますと、二十七万円という根拠が非常に問題になってくると思うんです。一切を決定してやるように思われます。家族の構成とか人数、これは変わりませんから。ここに書いてあります本人、控除対象配偶者及び扶養親族の合計数、これは変わりありません。変わってくるのは、二十七万円を乗ずるという金額が変わってくるわけです。いままでの改正というのは所得が幾らまで非課税になるというよりな、ラインが変わってきたわけです。今回の改正で特に違ひところは二十七万円に人数を乗ずるというところが大きく変わってきているわけです。そこで私は二十七万円の根拠というのが非常に大事になってくるのではないかと。なぜ二十七万円という基礎になつてきたのかというふうになるわけです。これは市で決めたわけではございませんので、当局で理解している範囲で答へ願えれば結構でございます。お聞かせ願いたいと思います。

それから、いわゆる資本積立金の金額をどのように掌握していただくか、徴収する上で、当局としては、という質問でございますので、この方法がお答えになつていないと思いますので、これはどういう方法でこれを掌握なさつていくのかお答え願いたいと思います。

それから、先ほどの答弁の中で一級地、三級地という地名の等級が出てまいりました。これはおそらく課税をする場合に、その町や市、地域によりまして、地域の社会情勢、生活程度、物価の程度、いろんな社会的なものが加味されました何級地ということになつていふと思ひます。たとえば人口とかさまざまな要因が等級をつけるのにはあると思ひますが、等級は全部で幾つある

んですか。館山が三級地という御説明ありましたけれども、どういうことで三級地ということですか。御説明願いたいと思います。簡単に結構です。

それから、固定資産税の関係でございますが、私は、いまの御説明では一DK未満のものが四十平方メートル、そうなるということですが、私の解釈は四十平方メートル以下というものは増築が多いんじゃないかというように考えるんです。先ほど申し上げましたように。増築が新築にならなければ、新築というものに該当しなければかまわないわけです。増築というのは新築と考えるようになってよろしいでしょうか。お聞かせください。

○総務部長（石田雄一君） 再質問の關係の、まず第一点の二十七万円の考え方でございますけれども、二十七万円を標準世帯四人という前提で掛けていきました場合に、所得百八万円というラインが出てくるわけでございますけれども、これを給与収入、給与所得者の例で見ますと、先ほど言いましたように百七十五万七千円と、これが現在の住民税の課税最低限百五十八万四千円との比較におきましての調整ということで、総合的な比較の中で二十七万円という数字が出てきたというふうに解釈をしております。

それから、資本積立金の掌握ということでございますけれども、法人税の關係では一応法人決算に基づきましての数字を根拠に課税をしておりますので、国税におきます資本積立金の申告段階での把握ということでございます。

三番目の地域等級の問題でございますけれども、現在、税の關係で申し上げますと、今回の十九万円の改正があるわけでございますが、本来ですと一級地の場合は二十三万円の額になるわけで

ございますが、生活保護法の基準によりましての一級地、二級地、三級地ということで、その級地区分、館山市は三級地になっていると、さらに自治省令によりまして、一級地の場合一・〇、二級地の場合〇・九、三級地〇・八の基準がございまして、これを改正におきます二十三万円に乘じまして、現行十八万円から十九万円に改正をするものでございます。

最後に、増築の場合ですけれども、固定資産税の今回の床面積要件はあくまでも新築住宅ということでございますので、すべてその増築につきましての要件も四十平米、百六十五平米という基準において判断をいたします。

失礼いたしました。増築はあくまでも旧棟との關係に於いての増築でございますので、該当からはずれないということでございます。訂正させていただきます。

○二〇番（石井武敏君） 個人市民税に關しまして、御答弁によりまして了解をいたしました。

ただ、一点法人税のほうで、出資金額に資本積立金を加える、資本積立金は申告によると答弁がありました。さらに申告漏れのないように配慮をしていただきたいと思うわけでございます。

課税というのは応能の原則というのがあるわけでございます。応能というのはそれ相応に応じた負担、これは当然市民として払うべきものであると思います。ですから、たとえ一万円の税金を払うにしても金持ちの一万円と貧乏人の一万円では違います。しかしおのの生活力に応じた、経済力に応じた同じ重みでなければならぬ、負担が。ここに税の公平ということが必要であると思います。そういう点で、特にそれぞれの能力に応じて応分の税

金を払うのは当然だし、取るものは当然だと思います。そういう点で申告漏れのないようにしていただきたい。公正であっても、りたいというのを御要望申し上げるものでございます。

もう一点、軽自動車税について、月割課税制度を廃止するものであるというのを書いてありまして、三ページの説明を見ますと、「課税の簡素合理化を図るため、月割課税制度を廃止する」ということになっております。これは、いままで月割で課税されたものが一年ごとに課税されるということになると思うんですけども、この点私は軽自動車税というのは、税金の性質が固定資産税とは違いますけれども、あくまでも財産に対する課税であるということが一つと、もう一つは、自動車ですから、陸上運送用ですから、道路を破損する、道路の破損に対する応能の負担を払うということがこの軽自動車税の意味だと解釈しているんですけど、そういう意味だとしますと、この軽自動車税を月割から年にしますと、そういう趣旨からいくと何かすごく——たとえば、館山市内で軽自動車を買いました、それが半年経ってほかの市に売りました、また逆の場合もあります。そういう移動が非常に激しいと思います。

そうすると、本当はそういう軽自動車税の持つ性格、性質、いわゆる道路を破損する、その負担として税金を払うんだという税の目的からすれば、本当は月割のほうが正しいんではないか。いわゆる年割で、現在車はここで使用されていない、A地点で使われていない、B地点に売買をした、そうするとこれは非常に不公平、税の目的からして不公平ではないか。これはへ理屈ではなくて、税の目的を考えると、何か事務的に非常にわずらわしい

んで年にしちゃったんだというふうに簡単に考えるんですけども、そういう課税の仕方ではいいのかなという疑問を持つわけです。ですから、本来の税を取る趣旨から照らし合わせてみて、これは何も館山市で一市というよりも地方税法の改正によってなっているんで、その点は認めますが、基本的な考え方としてこれはどういうふうに考えられますか、その点をひとつお答え願いたいと思います。

いずれにしても、これで質問を終わりたいと思いますけれども、税の応能、それぞれの能力に応じた平等な負担、公正といいますが、そういう点で配慮をしながら課税を進めていただきたいというふうに要望を付しておきます。

先ほどの質問につきまして、何点かお答えをいただきたいと思えます。

○総務部長（石田雄一君） ただいまの軽自動車税の月割課税の廃止でございますけれども、昭和三十三年に創設されて、その間三回月割課税の廃止がなされてきたわけでございますが、今回の五十六年度の残っております月割課税を全面的に廃止していくという考え方の中には、事務の簡素化ということでございまして、取得、移転、廃車等に伴います月割課税、それから月割の還付件数ということに伴っての手続きも多うございます。

ちなみに、本市の場合、五十四年度の例で申し上げますと、年度途中に新たに課税されました台数が千九十六台、逆に年度途中で還付をされることになりました台数は七百五十台でございます。非常に件数的には多いわけでございますが、賦課期日現在で課税をいたしましたものは一年間すべて税額をとる、さらに途中で廃

車をするといったものもひろく運付もなくなるという相殺を考えましての今回改正の考え方があったわけでございます。

○二〇番（石井武敏君） これで質問を終わりますけれども、最後に一点だけ要望として、検討事項としてもらいたいと思いますが、四十平方メートル以下のものは増築、新築ではないかの答えがあまりありませんけれども、私は新築に該当すると思います。このへんはよく御検討いただきたいと思います。四十平方メートルのもので建て増しの分というのはあくまでも新築ということで税法上扱うべきが当然であると思います。何か増築の分は新築でないかのような答弁が先ほどあったように思いますので、後ほど御検討願いたいと思います。終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質問ありませんか。

○一番（神田守隆君） 議案の三十二号の市税条例の専決処分についてですが、個人の市民税の低所得者層の負担の軽減を図るということで、非課税とするために二十七万円ですか、それに親族の合計数を乗じて金額を云々ということですね。これは私も大変おかしいことだと思っております。控除額をふやすという形ではなくて、こういう形で非課税の限度額を上げたというやり方は問題点が——こういう点ではどうなのかということなんですけれども、たとえば百七十五万七千円というぎりぎりの方、こういう方を見ますと、従来控除額をふやすというやり方なら、徐々に課税の額というのはふえていくわけですから——非課税の方はもちろんゼロですけれども、課税になった途端に課税額が急激にふえる、徐々にふえていくのではなくて急激にふえるという段差がでるんじゃないか。

そうすると、かえって百七十五万——たとえば百七十六万ぐらいですか、という方ですと、実際には課税をされて、実際の生活に使える可処分所得といえますか、そういう点ではむしろ少なくなっちゃうということが考えられないか。そこらの問題。非課税のところの直前のところの……。そのへんについてどういうような配慮がされているかお聞かせ願いたいと思います。

○総務部長（石田雄一君） 神田議員の御質問にお答えを申し上げます。

確かに神田議員のおっしゃるように百七十五万七千円を、給与収入に換算いたしました場合ですけれども、基準にいたしました非課税、課税というその段階を設けますと、その近辺の、それをわずかに上回る納税義務者の扱いというものは、非常に不公平を生ずるということもございまして、今回改正の中に触れてございまして、非課税基準の金額を若干上回る所得を有する者について、所要の調整措置を講ずる」というような改正をしてございます。

この考え方は、たとえば百七十五万七千四百四十二円という給与収入の者は、総所得金額で申しますと百八万円のランクでございまして、これは税額が課税にならないわけでございます。百八万円という総所得金額を前提にして考えますと、ストレートに税額を算出した場合に四千四百八十円の税が課税されるわけでございまして、これにつきましては、その税を引いたあとの数字を総所得金額というふうに読みかえまして、そこではじかれまして税額、いわゆる調整額という解釈をいたしまして、その調整額を当初の四千四百八十円から引くというように扱いをいたしま

す。この方の場合ですと、四千四百八十円マイナスの調整額四千三百八十円でございますから、百円の税ということに相なるわけでございます。

○一番（神田守隆君） 大体話としては了解しますけれども、大変苦肉の策でやったような気がするわけで、控除額をふやせば全部の所得者に影響しますし、大きな減税につながるということで、それをあえて避けてこういうやり方をやったために、事務当局としては大変複雑な計算をしなければならないということで、この負担も相当なものだと思ひます。

五十六年度一年限りということですが、今後こういうことが引き続き行われるということになれば大変考えなさいけないことでしょうけれども、そういう点では国の立法の仕方の問題で、やはり市長さんなり国に対して十分こういった問題を働きかけをしていっていただきたいということと終ります。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することと御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は承認することに決しました。

次いで、議案第三十三号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することと御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） 次いで、議案第三十四号市営土地改良事業施行の変更について御質疑を願います。

○二〇番（石井武敏君） 議案第三十四号は、御説明によりますと、農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業でございます。これが五十五年度から千葉県に委託して工事をしてきたけれども、県の事情によって五十六年度以降の施行については千葉県または千葉農産開発公社に委託しようというように、工事の施行方法が変わったんだという説明でございます。

私は、非常にこうした道路の整備というものは重要に考えております。どんな整備をしていただきたいというように思うわけです。そういうような要望に基づいて御質問申し上げる次第でございますけれども、千葉県で工事を進めてきたものが千葉県と千葉農産開発公社両方にかけて委託をしてきているわけです。なぜ千葉県でできなくなったのか、その何かの理由があると思います。千葉県で委託を引き受けたわけでございますので、きちんとした契約に基づいて進められてきた事業であるように私は感じますが、なぜこのように変わってきたのか御説明願いたいと思うのでございます。

そして、この整備事業が——農道の整備のように考えられますが、どこからどこに通ずる道路の整備事業でありましょうか、お尋ねをしたいと思えます。

事業の内容をみましても、農林漁業用に揮発油が使われて、その揮発油に税がかかる、その税がかかる見返りとして農産用の道路を直そうという意味の事業であるように解釈をいたしまして、ですから当然これは県が何分の一とか、国が何分の一とかという

率があると思えます。そういう意味から言いましても、当然県が最後までやるべきではないかと考えますので、そのへんの理由を明らかにしていただきたいと思います。

以上です。

○経済部長（山田俊康君） 第一点の千葉県に委託ということで議決をいただいたわけでございますけれども、県の都合——現実には五十五年度事業といたしましては館山の土地改良事務所——千葉県に委託しまして土地改良事務所が事業を執行したわけでございますが、土地改良事務所の職員の異動等によりまして、この事業が県自身でできない見込みというふうに変わってまいりました。職員異動に伴いまして県の農産開発公社に、というようなことに変更をお願いしたい次第です。県のほうで、現実に職員の関係から県自身ができない状態に職員異動がなされるということから、このようにお願いした次第でございます。

それから、どこからどこに通ずる道路ということでございますが、三芳村の御庄から館山市竹原に通ずる道路でございます。

通称申し上げますと、農免道路、農免道路といっているものです。

それから、財源の関係でございますが、五十六年度事業で申し上げますと、竹原地区の一期採択と二期採択とございまして、本年度予算に計上してお願ひして議決をいただきましたもの、全体事業費一億七百万、そのうち国庫補助が七千万、県費補助が千七百五十万という金額でございます。

○二〇番（石井武敏君） 現実的に県自身ではもうできないんだという御説明、これは現実的にそうならないれば仕方がないと思ひ

ますが、ただ議決をしたばかりなんです。予算を組んだばかり。五十六年度に県に委託をしてやるというところで、先般の三月議会で議決した矢先に変わってしまうところに、ずいぶん無責任だという感じがするわけです。

現実には、その土地改良事務所の職員が異動があつて、県ではすててできなくなつてしまつたんだ。だけれども、議決前にそういうことがわからなかつたのかということがあるわけです。ですから県が無責任だということ、またそういう予算を組むときに市のほうでそこまで考えが及ばなかつたのかどうなのかということになると思いますけれども、いずれにしてもこれは県がでないというんで仕方がないと思いますが、かなりの大きな額の工事、一億七百万の農免道路の工事であるということでございますので、工事に支障はないと思いますが、いままでも千葉県農業開発公社に委託してやつた道路がありますのでしょうか、お答え願ひたいと思います。

それから、地元負担としての持ち分は幾らになっておりますか。また、農免道路でございますので、農免道路というのはいろいろな規制があるように思います。一般の生活道路とか使用されている道路とはかなり性格が違つてきている。農業用のために、農業作業のためにだけつくるんではないと思いますけれども、そのへんのいろいろな規制があるように思います。どういふ規制が具体的に農免道路というのがありますか。お聞かせ願ひたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） 契約の関係でございますが、先ほど市長から御説明申し上げましたように、五十四年の十二月議会にお

きまして議決をいただきました。そのときは千葉県において実施できるといふ県も見込みでございました。

この事業は、総事業費といたしましては二億七千万、五十五年から三カ年事業ということで竹原一期、それから二期採択合わせますと五十五年から五十七年までの事業と、五十六年から五十八年までの事業、継続しますと四カ年事業ということで実施しております。五十五年度、すでに、金額で申し上げますと、五千万ほどの県に委託した事業は完了してございます。

それから、地元の負担ということですが、館山市負担ということとで申し上げますと、今年度の事業一億七百万のうち、一千四百万ほどが市負担になります。一応、予算といたしましては、一千四百万のうち、起債が八百万、六百万が市費負担ということとでございます。

農免道路の規制、性格でございますが、現実には総就業人口に対する農林業就業人口の比率がその受益を受ける地帯においては全体の三〇％以上であること、そして最近五カ年間に於ける農地の総面積に対します人為的な改廃面積、要するに農地がつぶれていく面積がおおむね一割未満、それから事業により新設——今回は新設ですが、新設される道路に係る将来の自動車の一日交通量がおおむね百台以上であり、その交通量の大多数が農業に係るものであること、そして事業により農漁業の効果が事業費に比して妥当なものとして指定されるものというううな、一応農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業の施行にあつてはこういうものがございいます。

○二〇番（石井武敏君） ただいまのいろいろな御説明で、だんだ

んとこの輪郭がはっきりしてきたわけですが、要するに千葉県というよりも千葉県農業開発公社が全面的にやるということで解釈してよろしくございますか。

道路の問題は非常に大事な問題でありますし、道路整備というのはそこに住む人々の文化生活をあらわしていると言っても——生活程度をあらわしていると思います。そのくらい大事なものでございますので、あえて御質問申し上げている次第なんです。千葉県ではなくて、実質的には農業開発公社がやるということではないわけですね。

農業開発公社がいままでやってきた道路、どういふところがあるのかということは御説明がないと思いますが、もしあったら教えていただきたいと思ひます。

○経済部長(山田俊康君) いままで土地改良事業ということで、市営の土地改良事業等は農業開発公社が実施しております。最も近いものでは、松岡地区等も実施しております。

○二〇番(石井武敏君) ですから、全面的に農業開発公社がやるということではないわけですね。全部事業を。

○経済部長(山田俊康君) 現在、県から農業開発公社に委託がえをお願いしたいという要望が出ておりますので、そのようにしたいと考えております。

○二〇番(石井武敏君) 質問を終わります。

○議長(五十嵐 昇君) 他に御質問ございませんか。

○一番(神田守隆君) 千葉県農業開発公社ということで少しお聞きしたいんですが、千葉県農業開発公社というのはどういふものなのか、その御説明をいただきたいと思ひます。

まず、公社への出資はどうなっているのか。全額県であるのかまたそれ以外があるのか。それと、代表者というのか、理事長というのかわかりませんけれども、どういふ方で、農業開発公社の目的とするところは何か。いつつくられて、これまでどのような工事実績なり、主な事業実績があるのか。それについてお答え願ひたいと思ひます。

○経済部長(山田俊康君) 資料を取り寄せますので……。

○議長(五十嵐 昇君) 他に御質問ありませんか。——ないようですので、暫時休憩いたします。

午前十一時 十分 休憩

午前十一時二十七分 再開

○議長(五十嵐 昇君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

一番議員君の質疑に対する経済部長の御答弁を願ひます。

○経済部長(山田俊康君) 千葉県農業開発公社の設立でございますが、昭和四十年三月三十一日設立。目的は、農林業の近代化を推進するための農林業の各事業、農産物の基盤整備を目的として設立されております。

それから、出資金の関係でございますが、出資金総額が八千五百五十万、千葉県が四〇％、三千二百六十万、市町村で三〇％、二千四百四十五万、農協連で三〇％、二千四百四十五万。

それから、役員でございますが、会長が副知事ということで、現在空席になっております。理事長は古川さん、元県の農林部長をされた方でございます。

事業の実績でございますが、昭和五十五年度、調査設計三百二十二件、金額に契約高といたしましては四億五千万、それから水

田は場整備百七十三件、三十九億四千万、畑地は場整備三件、農地造成二十四件、草地造成三十二件、農道開設三十七件、林道開設二件、灌漑排水百二十七件、畑地灌漑が五件、等がございまして、五十五年度の契約金額では、受託契約額では七十七億九千九百万にのぼっております。

この契約先は市町村、それから土地改良区、水利組合等、県内の各団体からでございます。

○一番（神田守隆君） 了解いたしました。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することと御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午前十一時三十二分 休 憩

午後 三時二十七分 再 開

○議長（五十嵐 昇君） 午後の出席議員数二十七名、休憩前に引き続き会議を開きます。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） 議案第三十五号昭和五十六年度一般会計補正予算について御質疑を願います。

○二〇番（石井武敏君） 衛生センターの搬入道路の補正がここに議案として出てきているわけなんですけれども、この議案を見まして、単に道路が決壊しているから直すんだというふうには簡単には受け取れないように感じられます。なぜかなれば、衛生センターの建設というのは非常に大規模な事業でございますし、おそらく館山市史に後世残るであろうと思われるような大きな意味のある事業であります。また、これを見守る市民も等しく無事に完成をして、そして無事に稼働していくことを少なからず祈っていると私は思うわけでございます。こうした大きな衛生センターの事業の中の一つの部分として、今回搬入道路の整備というもので、おそらく道路の決壊が認められてそれに対する補正だろう、こういうふうにいるわけでありますが、この補正につきまして少し御質問申し上げたいと思います。

まず、搬入道路につきまして、いままでたびたび補正があったように記憶しております。またその額も数億にのぼるような大きな補正が過去にあったように思います。この搬入道路は当初から計画され、そして一応搬入道路としての形態を整えた、そういう

一つの完了した時点があったらというふうに思われます。ですから、搬入道路の工事は一応道路ができたという時点で完了していると私は理解をしておいたわけですが、その後搬入道路の決壊が認められ、地盤沈下、あるいは側面に穴があくというような同じようなたぐいの決壊があったわけでありす。そのたびに補正を組んでまいったわけでありすけれども、いままでの補正の額としてどの程度まで額がのぼっているかお答え願いたいと思ひます。

なぜ私はこういった質問をするかといいますと、この事業が非常に意味のある、大きな大切な事業であるということ。そしてこの事業が、事業をやっている地域が非常に身近なところに、目と鼻の先にある道路をつくっているんだということ。ですから、地盤沈下しやすい土質とか、地層とか、そういうものは、これほど身近にある工事がなぜ早くにそういったところが判明しなかったのかというような疑問が残るわけでありす。この事業は、私が理解しておいたように、一応道路の整備事業としては完了してあるというように理解するんですが、当局はそのように理解をしているんでしゅうか。この点をお答え願ひたいと思ひます。

そして、いままでの補正のあり方、ずっと振り返ってみますと何か今後これからもこういった補正が突如として出てくるというような予感がするわけでありす。そういうことを踏まえまして対策方をお答え願ひたいと思ひわけでありす。

いずれにしても、搬入道路というのは、そのできました設備をいかに効率的に運用するか非常に大切な部分であると思ひます。道路が悪くては車が入りません。また、衛生センターが建設

されましたあと、相当頻繁にこの道路は使用されるわけでありす。そういうことからしまして、そういった長期にわたり耐え得るものでなければならぬし、またときどき決壊をするようなところではとても事業の運営はできないわけでありすので、そういった事業の重要性からしましてここに質問するわけでありす。そのひとつをお答え願ひたいと思ひます。

○民生部長（鈴木 力君） お答え申し上げます。

搬入道路の建設にあたりましては、一応三月二十五日に工事が完了してありまして、竣工検査も完了しておるわけでありすので、その時点におきまして搬入道路の建設工事はひとまず終つた、こういう解釈でございます。

この道路建設としては、何ぶんにも山林を切り開いての進入道路の建設でございましたので、予測しない事態も生じまして、過去におきまして空洞の充てん工事、あるいはまた一部の擁壁の補強工事等行つたわけでございますが、今回におきまして特に切土部分につきまして、設計段階におきましては比較的土壌も固いというよりなことから、切土部分については法面の保護工事も施行しなくても安全であらう、こういう設計者の御意見であつたわけでございます。したがって設計上におきましては保護工事が入つておらなかつたわけでございますが、実際に敷きまして地質というものが砂岩、泥岩ということから風化しやすい、こういう状態でございます。特に霜どきにおきまして霜が浮き上がる、こういうことと、さらに三月、四月におきましては非常に降雨量が多かつたわけでございます。

こういうことによりまして、切土部分の表土部分がだんだん風

化し、かつ土砂が流出する、こういう状態が生じておったわけでございまして、様子をみながら補強工事等を実施するように対処してまいりたい、こういう考えであつたわけでございますが、最近に至りましてはこのまま放置すると法土部分が崩落するといふおそれが生じてまいつたのでございまして、この機会に、衛生センターの運転に入る前にこの工事を完了したい、こういう考え方に立ちまして、特に今回この工事を施行しようということ、補正予算を計上し、お願いをしたわけでございます。

補正の金額でございますが、この工事につきましては、当初一億八千六百五十万円をもちまして建設工事の請負工事を締結したわけでございますが、その後特に別途工事といましては先ほど申し上げました空洞充てん工事を九月議会にお願いいたしました、この工事が千三百十五万円でございました。それからなお十二月議会におきまして法面補強工事ということで五百五十七万円を追加補正をお願いしたわけでございます。そのほか水道の整備、あるいはまた真倉寄りの浄水場のケーブルの付けかえ工事、それからなお芝張り工事等行いまして、追加工事としましては五千七十二万でございます。——今度お願いしました三千二百万円を加えまして五千七十二万円が別途の追加工事の予算でございます。

〇二〇番（石井武敏君）　ただいま御説明を受けたわけでございますが、今回の補正を含めまして四回の補正をいままで行っているわけでございます。道路の部分に關しまして。その他の分を含めますけれども、そのたびに道路の決壊等を直しているわけでございますが、一応御答弁でいきますと、道路として完了して検査

が通っているわけでございます。完了して検査が通るといふことは、道路として十分使用に耐える、そういう工事の完了と、そういう検査が通つたというように私は解釈をするものでございますが、何かそういうふうに解釈をしますと、そういう検査が完了というものが非常に不十分ではないだろうかというような疑問がわいてくるわけでございます。特に予測し得ない決壊や予測し得ない状態が次々に出てくる——おそらくずっといままでの議会を振り返りまして、そのような予測し得ない状態、突発的な決壊というような説明が非常に多かつたように思ひます。それであえて質問しているわけでございます。

これは、道路の決壊という結果となつたその要因、責任といひますか、それは一体どこにあるとお考えでしょうか。設計する段階でおそらく十分地質の調査とか、ここに道をつくるのにはこういう設計でいけばだいじょうぶだという設計をつくるんじゃないんですか。設計というのとは一つの与えられた地盤に対してどうつくるかということを図面をつくり上げていくわけでございますので非常に設計というものは大事だと思つておられます。設計はどこがやっておりますか。工事はどこがやっておりますか。御説明願ひたいと思います。特に、何か予測し得ないような状態がたびたび起こるということに關しまして非常に調査が不十分であるといふことを質疑の中から感ずるわけであります。

もう一步具体的に突っ込んで御質問しますと、じゃあ設計に任せたからいいのかというわけにはいかないと思ひます、衛生センターの持つ非常に大事な事業であるという意味合いからして。やはりどういふ調査を設計の段階でなされているかという確認や進

み具合は当然掌握してしかるべきではないか。任せきりでもう道はできました、それで完了して検査は終了しました、引き渡します、そのあと結果が出ました。こういうことでは任せきりのような感じがします。当局としてそういった設計の段階で具体的にどういような調査を委託した会社でやられたか、たとえば地殻、地質、さまざまな調査があると思いますが、建物にしても、建物を建ててから下が決壊したんでは何もならないわけです。建造物を建てる場合には必ず地殻を調べていく打ちをする、これは素人が考えても常套であるし、常識であると私は思います。そうした一般的な常識から推し計りまして、今回の補正があまり何か補正補正でくるんで常識の範囲を少しはみ出ているように感じます。そういう点で、具体的に、たとえばどういような調査をなさったのかお知らせ願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 設計にあたりましては、測量調査設計となお実施設計をサンコーコンサルタントに委託したわけでございますが、設計段階におきましてはもちろん一つの完全な道路として工事を施行できるような設計を委託したわけでございまして、したがって、調査につきましては各項目にわたりました調査が行われておりますが、ただ地質調査等になりますと、一応の現地の踏査調査等は実施しております、さらにまた地盤の軟弱等につきましては隣接いたします、県の現在工事をやっております藤原の運動公園の地質調査、これらを十分参考として決定したということが設計者の意見として説明がなされておりますが、いずれにいたしましても今回の搬入道路の建設にあたりましての設計については十分調査がされた上におきましての設計がなされてい

る、このように考えておる次第でございます。

○二〇番（石井武敏君） 十分な調査をされてこのような結果になってくるところがちよっと腑に落ちないわけでございます。そこで十分な調査は、五項目にわたる調査をなさったそうですが、どういような調査をなさったんですか。

私は、請け負った会社を攻撃するわけでもなんでもございませぬ。ただ常識的に、一般市民としてこの工事が無事に完了するよう、そして大きく完成の、稼働を期待する、そういう立場から御質問しているわけなんです。

どこの会社が設計してという答えが返ってこなかったんですが、設計は聞きましたけれども、工事ですね。これをお答え願いたいと思います。

これは、いままで道でないところをおそらく道にするという、確かにいままで道があればそのまま入れますけれども、道がないところを切り開いて道をつくるというハンデがあったと思います。しかしこういうハンデは当然予測されるものでありまして、衛生センターの場所を決める以前から討議された問題だと思っております、もう少しなぜ完璧な調査を、すっきりした計画を——たとえば道路整備計画がでなかったのか、こういうふうに思っております。

もう一点、道路の幅。何メートルの幅の道路をつくらうとなさっておりますか。たくさんの台数が一日に往復をする道路であろうと思いますので、十分その使用に耐え得るものでなければならぬと思います。また、これからこの道路を管理していくという上からこの道路の設定——この道路はおそらく市道として認定し

ていくんではないかと思いますが、そのへんを明らかにしたいただきたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 今回の搬入道路の請負業者は、三菱建設株式会社千葉支店との間に契約を結びまして、工事が施行されております。

それから、今回の道路につきましては、有効幅員を五メートルということによりましてつくられておりますが、ただ部分的には五メートルを割りまして四メートル五十程度の幅員の個所もございます。

それから、市道の認定につきましては、これはやはり衛生センタの業務で使いたします、いわゆるし尿収集車の運行を主体とした専用道路として市が管理していく考えであります。

○二〇番（石井武敏君） 施行をさったのは三菱建設株式会社千葉支店ということですが、たとえば三菱建設株式会社が施行しまして、それが完了して検査が一回通っているわけですね。その後そういった結果が起こったり、補正が組まれているといういきさつから、当局としてはどのような交渉を三菱建設株式会社となさいましたか。

そのへんの責任の持ち方といいますか、工事のする側はする側として責任を持つべきと思います。おのおの責任があると思います。単に、そのときに十分調査をしたんだけれども、突然こうなったということでは簡単に済まされないと私は思うんです。その点で三菱建設株式会社とどういうような——その後日数も経過しているわけでございますので、何回か話し合いを持たれて——そのへんの話し合いと進み具合はどうかしましたか。

とにかく、決壊が出れば補正をすればいいんだというやり方で進まれたんでは、これからも決壊するかもしれないという将来に對する不安的な要素が多分に感じられるわけです。そういった不安を解消するためにもどのような折衝をなさいましたか。

また、そういうことは、完了して、引き受けて、検査が終ったんだからむこうには責任がない、手落ちがないというふうにお考えでしょうか。市のほうの手落ちだよというふうに考えておられるのでしょうか。

この道路の使用についてでございますが、ただいまの御説明だと四・五メートルの幅員もというよりな御説明がありましたけれども、非常に狭いように説明では感じただけです。実際の使用にあたりまして、収集車が往復をするのに非常に狭い道路ではないかというように感じますが、実際それを使ったときどうなるか、そこまでお考えになっているのでしょうか。その点をひとつ明らかにしたいかと思いますが。

○民生部長（鈴木 力君） 工事の施行中におきましては、建設者と絶えず市の管理者がいわゆる監督上、話し合いというものは常になされてきておりまして、したがっていまして竣工検査の段階におきましては、一応設計どおりにすべて施行されているということを確認しまして竣工検査を終えている次第でございます。

なお、幅員につきましては、当初市におきましては六メートルの幅員というよりなことで考えておったわけでございますけれども、設計業者との間の話し合いの中で有効幅員五メートルあれば十分だ、こういう設計者の話もございまして、それに基づきまして設計上五メートル幅員ということで施行されたような次第でござ

ございます。

一応、収集車等の運行につきましては、五メートル程度でさしたる支障はないというふうに考えておる次第でございます。

○二〇番（石井武敏君） 私の質問これで終わりますけれども、私と先ほど御質問した点は、結局竣工を、完了した時点以後補正が行われたり、決壊が出たりしているわけでございますので、完了まではお互いに行ききして監督もし、工事ははかどられてきたと思います。私がお聞きしている点は、そうではなくて、その後にくういった状態になっているので、その点では話し合いをしたかどうかということを知りたいです。なぜ話し合いをしたかどうかと聞いてみると言えば、確かに設計どおりやったかどうか知りませんが、その設計と施行が不十分であったからこういうことになったのではないかとというふうに考えるわけです。そういう点で、大変しつこいように感じられるかもしれませんが、その後の話し合いをしたのかということも一点伺いたいと思います。いづれにしても、この事業は皆さんが見守っている、立派な施設ができて稼働してくれるように願っている事業でございますので、そういう点で今後万全を期していただきたい、こういう要望を付しまして、いまの質問にお答えを願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） お答えいたします。

検査後におきまして、もちろん請負業者におきまして法面の保護対策等につきまして御意見等聞いておるわけでございますが、今回の工事につきましては、先ほどお答えいたしましたとおり、設計には法面の切土部分の保護工事というものがございまして、したので、今回その後の状況によりまして、やはり切土部分の法

面の保護工事が必要であるというように断定をしたわけでございます。これはもちろん業者の意見等も聞いたわけでございまして今回実施することにしたわけでございます。

○二〇番（石井武敏君） 質問を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ありませんか。

○四番（横溝 功君） いまの質問に関連して質問する次第ですがこの法面、現場へ行けば非常にやわであって、当然補強しなければいけないという事はわかっているわけなんです、初めからですから、やはり市当局は率直に言って何回も何回も補正するんではなくて、無理だとしても、一応こういう状況であるといううりなことも説明しておかないといけないと思います。やっぱり市議会に対する説明が不十分だということを指摘したいと思ひます。答弁を求めるわけじゃないですけれども、ひとつ今後気をつけてやってもらいたいと思います。

それから、先ほど市長のほうから御説明があつて、ごみのほうもあそこへつくるといふようなお話もございました、市長の努力を多とするものでございますが、ごみのほうの車は多少幅が広いでしょう、車の。ですから、本当に五メートルで、今後ごみと尿の車がだいたいぶつかどうか、その点ひとつお伺いしたいと思います。

それから、もう一つですが、三千二百万ですか、補正するわけなんですけれども、財源が繰越金でございますが、大体今年度五十五年度どのくらいの繰越財源をみておつて、そのうち三千二百万ここに上げたと思うんですけれども、一応どの程度の繰り越しが出るものなのかどうかお聞かせ願いたいと思ひます。

○民生部長（鈴木 力君） 搬入道路につきましては、ただいま議題となっております真倉寄りの新設搬入道路、なお五十六年度に建設が予定されております西長田寄りの搬入道路が新しくまた建設されるわけでございまして、二面に搬入道路ができるわけでございまして、今後ごみの収集運搬を含めまして通行量等を考えましても、この二面の搬入道路におきまして運行は支障はないというふうに考えておるわけでございます。

○総務部長（石田雄一君） 二番目の御質問の、五十五年度の繰越財源等の見通しについてでございますけれども、現在計数整理に入っているわけでございますが、見通しといたしましては、歳入見込みで約九十二億、歳出見込みといたしまして八十七億ということで、実質収支で見ますと四億八千万ぐらいになるかと考えております。

○四番（横溝 功君） いまのお答えで了承いたしますが、今後こういう追加がこの法面についてないかどうか。すいませんがもう一遍今後もうないかあるか、その点だけちょっと御答弁願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 現時点におきましては、一応新しい追加工事というものはないというように考えておる次第でございます。

○四番（横溝 功君） 了解しました。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

ここで副議長と交代いたします。

（議長五十嵐 昇君退場）

（副議長、議長席に着く）

日程の追加

○副議長（菊井敏博君） 議長五十嵐 昇君から議長の辞職願いが提出されております。

お諮りいたします。この際、議長辞職の件を日程に追加し、議題とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（菊井敏博君） 御異議なしと認めます。よってこの際議長辞職の件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議長辞職について

○副議長（菊井敏博君） 議長辞職の件を議題といたします。

まず、辞職願いを朗読いたさせます。

（書記朗読）

○副議長（菊井敏博君） 朗読は終わりました。

お諮りいたします。五十嵐 昇君の議長の辞職を許可することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（菊井敏博君） 御異議なしと認めます。よって五十嵐昇君の議長の辞職を許可することに決しました。

（五十嵐 昇君入場）

五十嵐昇君のあいさつ

○副議長（菊井敏博君） この際、五十嵐議員より発言を求められております。暫時これを許します。

（二五番議員五十嵐 昇君登壇）（拍手）

○二五番（五十嵐 昇君） 皆さま方の絶大なる御支援、御支持、御鞭撻によりまして、大過なくこの一年の議長職を務めさせていただきましたこと、私一生の思い出として、心から厚く厚くお礼を申し上げる次第でございます。

浅学非才でございますが、皆さまの御期待に沿えなかったことと存じますけれども、皆さま方の御寛大なる御友情によりまして本日を迎えましたこと、私一生のよき思い出としてあの世まで持ってまいりたいと、こう存ずるものでございます。

大変、皆さま方の絶大なる御友情に對しまして、心から厚く感謝とお礼の言葉を申し述べたいと存じます。大変どうもありがとうございます。

うございました。（拍手）（「御苦勞さん」との声あり）

○副議長（菊井敏博君） 暫時休憩いたします。

午後四時五分 休憩

午後四時七分 再開

○副議長（菊井敏博君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程の追加

○副議長（菊井敏博君） ただいま議長が欠員となりました。

お諮りいたします。この際、議長の選挙を日程に追加し、選挙を行いたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（菊井敏博君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

議長の選挙

○副議長（菊井敏博君） 議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

○副議長（菊井敏博君） ただいまの出席議員数は二十七名であります。

投票用紙を配付いたさせます。

（投票用紙配付）

○副議長（菊井敏博君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。――配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

（投票箱点検）

○副議長（菊井敏博君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、点呼に応じて順次投票をお願いします。

点呼を命じます。

（事務局長補佐氏名点呼、投票）

○副議長（菊井敏博君） 投票漏れはありませんか。——投票漏れなしと認めます。投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

（議場閉鎖）

○副議長（菊井敏博君） これより開票を行います。

会議規則第三十一条第二項の規定により、立会人に近藤好雄君及び押元 総君を指名いたします。よって両君の立ち会いを願います。

（立会人登壇、開票）

○副議長（菊井敏博君） 選挙の結果を報告いたします。

投票総数二十七票。これは先ほどの出席議員数に符合しております。

そのうち有効投票二十七票、無効投票なし。

有効投票中、林 豊君二十五票、神田守隆君一票、五十嵐 昇君一票、以上のとおりであります。

この選挙の法定得票数は七票であります。よって林 豊君が議長に当選されました。

ただいま議長に当選されました林 豊君が議場におられますので、会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

議長のおいさつ

○副議長（菊井敏博君） この際、林 豊君を御紹介いたします。

（議長林 豊君登壇）（拍手）

○議長（林 豊君） ひと言ごあいさつを申し上げます。

ただいま、投票の結果、はからずも私が館山市議会議長の職を与えられることに相なりました。まことに身に余る光栄でありまして、皆さま方の御推挙に対しまして深く感謝を申し上げますところでございます。

私、もとより非才の身でございまして、しかのみならず議会経験もいまだに浅く、はたしてその重責にたえ得るかどうかはなはだ疑問であります。しかしながら、一たん皆さま方から御推挙をいただいて当選をいたしました以上は、館山市議会の共通の目的に向かって粉骨砕身努力を傾注する覚悟でございます。そして、皆さま方の御負託におこたえ申し上げますとともに、館山市政の発展に寄与する所存でございますので、なにとぞ倍旧の御支授、御叱正のほどをお願い申し上げます。あいつといたします。（拍手）

○副議長（菊井敏博君） 以上で議長と交代いたします。
御協力ありがとうございました。

（議長、議長席に着く）

（副議長菊井敏博君退場）

日程の追加

○議長（林 豊君） 副議長菊井敏博君から副議長の辞職願いが提出されております。

お諮りをいたします。この際、副議長辞職の件を日程に追加し、議題とすることに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、この際副議長辞職の件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

副議長辞職について

○議長(林 豊君) 副議長辞職の件を議題といたします。

まず、その辞職願いを朗読いたさせます。

(書記朗読)

○議長(林 豊君) 朗読は終わりました。

お諮りいたします。菊井敏博君の副議長の辞職を許可することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、菊井敏博君の副議長の辞職を許可することに決定をいたしました。

(菊井敏博君入場)

菊井敏博君のあいさつ

○議長(林 豊君) この際、菊井敏博議員より発言を求められております。暫時これを許します。

(二三番議員菊井敏博君登壇)

○二三番(菊井敏博君) 過去二年間、非常に重責であります副議長の職を務めさせていただきましてありがとうございます。皆さま方の御協力のもとに大過なく過ごさせていただいたことに深く

感謝申し上げます。

今後、議員の一員となりまして、館山市政の発展のためにできる限りの努力をする覚悟でございます。なにとぞ今後ともよろしく御指導、御鞭撻のほどをお願いいたしまして、簡単ではございますが、退任のあいさつにかえさせていただきます。(拍手)

日程の追加

○議長(林 豊君) ただいま副議長が欠員となりました。

お諮りいたします。この際、副議長の選挙を日程に追加し、選挙を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

副議長 の 選挙

○議長(林 豊君) 議場の閉鎖を命じます。

(議場閉鎖)

○議長(林 豊君) ただいまの出席議員数は二十七名であります。投票用紙を配付いたさせます。

(投票用紙配付)

○議長(林 豊君) 投票用紙の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めます。

(投票箱点検)

○議長(林 豊君) 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、点呼に応じて順次投票願います。点呼を命じます。

(事務局長補佐氏名点呼、投票)

○議長(林 豊君) 投票漏れはありませんか。——投票漏れなしと認めます。投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

(議場閉鎖)

○議長(林 豊君) これより開票を行います。

会議規則第三十一条第二項の規定により、立会人に近藤好雄君及び押元 総君を指名いたします。よって両君の立ち会いを願います。

(立会人登壇、開票)

○議長(林 豊君) 選挙の結果を報告いたします。

投票総数二十七票、これは先ほどの出席議員数に符号いたしております。

そのうち有効投票二十七票、無効投票なし。

有効投票中、流山源次郎君二十五票、神田守隆君一票、安澤徳順君一票、以上のとおりであります。

この選挙の法定得票数は七票であります。よって流山源次郎君が副議長に当選されました。(拍手)

ただいま副議長に当選されました流山源次郎君が議場におられますので、会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

副議長のあいさつ

○議長(林 豊君) この際、副議長流山源次郎を御紹介いたします。

(副議長流山源次郎君登壇)(拍手)

○副議長(流山源次郎君) 皆さま方の非常に温かい御推挙によりまして、副議長の大役をいただきましたことに對して、身に余る光栄で、感激でいっぱいでございます。また、責任の重大さを痛感しておるものでございます。

館山市議会の長い歴史の中で、先輩の方たちが議会運営に残された足跡を汚さないように、私は林議長を補佐いたしました。今後とも全力投球をいたしていくつもりでございますので、どうか今後ともよろしく御指導、御支援のほどお願いいたします。簡単でございますが、あいさつにかえさせていただきます。(拍手)

日程の追加

○議長(林 豊君) お諮りいたします。

ただいま、安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員一名、千葉県競輪組合議会議員二名、安房南部伝染病隔離病舎組合議会議員六名、館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員八名、三芳水道企業団議会議員八名が、それぞれ本日都合により辞任されました。よって、それぞれ組合規約の定めるところにより、これが補欠選挙を本日の日程に追加し、直ちに選挙を行いたいと思ます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、それぞれ各

組合議会議員の補欠選挙を日程に追加し、選挙を行うことに決しました。

安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員の補欠選挙

○議長（林 豊君） 安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員の補欠選挙を行います。

補欠議員の数は一名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第百十八条第二項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りいたします。指名の方法は、議長において指名することによりたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員に石井 正君を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました石井 正君を安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よってただいま指名

のとおり石井 正君が安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました石井 正君が議場にあられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

千葉県競輪組合議会議員の補欠選挙

○議長（林 豊君） 千葉県競輪組合議会議員の補欠選挙を行います。

補欠議員の数は二名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第百十八条第二項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りいたします。指名の方法は、議長において指名することによりたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。千葉県競輪組合議会議員に渡辺昭夫君、藤田益治君、以上両君を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました両議員君を千葉県競輪組合議会議員の当選人と定めますことに御異

議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よってただいま指名のとおり渡辺昭夫君、藤田益治君が千葉県競輪組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました渡辺昭夫君、藤田益治君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

安房南部伝染病隔離病舎組合議会議員の補欠選挙

○議長(林 豊君) 安房南部伝染病隔離病舎組合議会議員の補欠選挙を行います。

補欠議員の数は六名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第百十八条第二項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りをいたします。指名の方法は、議長において指名することによりたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。安房南部伝染病隔離病舎組合議会議員に横溝 功君、古賀礼四郎君、栗原一雄君、五十嵐 昇君、伊賀多朗君、山口 康君を指名いたします。

議員に横溝 功君、古賀礼四郎君、栗原一雄君、五十嵐 昇君、伊賀多朗君、山口 康君を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました六議員君を安房南部伝染病隔離病舎組合議会議員の当選人と定め、すことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よってただいま指名のとおり横溝 功君、古賀礼四郎君、栗原一雄君、五十嵐 昇君、伊賀多朗君、山口 康君が安房南部伝染病隔離病舎組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました横溝 功君、古賀礼四郎君、栗原一雄君、五十嵐 昇君、伊賀多朗君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

山口 康君については、後刻議長のほうより告知をいたします。

館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の補欠選挙

○議長(林 豊君) 館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の補欠選挙を行います。

補欠議員の数は八名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第百十八条第二項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りをいたします。指名の方法は、議長において指名することになしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よつて議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員に神田守隆君、石井 謀君、福原 勲君、松下正己君、伊藤幸太郎君、黒川平治君、石井輝久君、石井武敏君を指名いたします。

お諮りをいたします。ただいま議長において指名いたしました八議員君を館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よつてただいま指名のとおり神田守隆君、石井 謀君、福原 勲君、松下正己君、伊藤幸太郎君、黒川平治君、石井輝久君、石井武敏君が館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました神田守隆君、石井 謀君、福原 勲君、松下正己君、伊藤幸太郎君、黒川平治君、石井輝久君、石井武敏君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

三芳水道企業団議会議員の補欠選挙

○議長(林 豊君) 三芳水道企業団議会議員の補欠選挙を行います。

補欠議員の数は八名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第百十八条第二項の規定により、指名推選によりたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よつて選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りをいたします。指名の方法は、議長において指名することになしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よつて議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。三芳水道企業団議会議員に石井昌治君、近藤好雄君、押元 稔君、吉田勇治郎君、菊井敏博君、和田一郎君、安澤徳順君、安西益男君を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました八議員君を三芳水道企業団議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よつてただいま指名のとおり石井昌治君、近藤好雄君、押元 稔君、吉田勇治郎君、菊井敏博君、和田一郎君、安澤徳順君、安西益男君が三芳水道企業団議会議員に当選されました。

ただいま当選されました石井昌治君、近藤好雄君、押元 稔君、吉田勇治郎君、菊井敏博君、和田一郎君、安澤徳順君、安西益男

君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

日程の追加

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本市議会の申し合わせにより、常任委員会委員の改選をいたしたいと思ひます。これを本日の日程に追加し、直ちに議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって常任委員会委員の改選を本日の日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

常任委員会委員の選任

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

ただいまの決定により、現在の各常任委員会委員は全員それぞれ辞職し、全委員会とも欠員となったことといたしますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

お諮りいたします。ただいま決定されましたとおり、各常任委員会とも欠員となりましたので、本日直ちにこれが選任を行いますと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本日直ちに選任することに決しました。

これより各常任委員会委員を本市議会委員会条例第四条の規定により選任いたします。

各常任委員会委員の氏名を書記をして朗読いたします。

○書記（熊谷吉雄君） 朗読いたします。

総務委員会委員 横溝 功さん、渡辺昭夫さん、伊藤幸太郎

さん、押元 稔さん、流山源次郎さん、吉

田勇治郎さん、藤田益治さん、菊井敏博さ

ん、和田一郎さん。

文教民生委員会委員 神田守隆さん、古賀礼四郎さん、松下正己

さん、栗原一雄さん、近藤好雄さん、石井

武敏さん、五十嵐 昇さん、伊賀多朗さん

石井 正さん。

建設経済委員会委員 石井 謙さん、福原 勲さん、石井昌治さ

ん、林 豊さん、黒川平治さん、石井輝久

さん、安澤徳順さん、安西益男さん、山口

康さん。

○議長（林 豊君） ただいま朗読いたしましたとおり各常任委員会委員に選任いたします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

この際、同条例第五条の規定により、各常任委員会において互選されました正、副委員長を報告いたします。

総務委員会委員長 横溝 功君、同副委員長 伊藤幸太郎君、文教民生委員会委員長 古賀礼四郎君、同副委員長 松下正己君、建設経済委員会委員長 石井 謙君、同副委員長 福原 勲君。

なお、この際御報告申し上げます。議会運営協議会委員に神田守隆君、古賀礼四郎君、石井昌治君、松下正己君、栗原一雄君、黒川平治君、石井武敏君、安澤徳順君、以上八議員君が選任され互選の結果、委員長に栗原一雄君、副委員長に松下正己君が決定されましたので報告いたします。

暫時休憩いたします。

午後四時五十三分 休憩

午後五時五十四分 再開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

会議時間の延長

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本日の会議時間は、議事の都合により、この際あらかじめこれを延長したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本日の会議時間は延長することに決定いたしました。

暫時休憩いたします。

午後五時五十四分 休憩

午後六時五十五分 再開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程の追加

○議長（林 豊君） ただいま市長から議案第三十六号監査委員選任の件が提出されました。この際、これを日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よってこの際議案第三十六号監査委員選任の件を日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

議案の配付

○議長（林 豊君） 議案を配付いたします。

（議案配付）

○議長（林 豊君） 配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の上程

○議長（林 豊君） 議案第三十六号監査委員の選任についてを議題といたします。

本案は、地方自治法第百七条の規定により、安西益男君の一人身上の事件でありますので退席を求めます。

（二九番議員安西益男君退場）

○議長（林 豊君） 議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 朗読は終了しました。

議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第三十六号監査委員の選任について提案理由の御説明を申し上げます。

本市の監査委員中、議員の中から選任をいたします委員が欠員となりましたので、安西益男議員が学識経験とも豊かでございますし、計数に明るい方でございますので、選任をいたしたいと思ひます。

満場の御賛同をいただきたいと思います。以上提案説明を終わります。

○議長(林 豊君) 御質疑はございませんか。――御質疑なしと認めます。よって質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長(林 豊君) お諮りいたします。

本案を委員会付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

採 決

○議長(林 豊君) お諮りいたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

(二九番議員安西益男君入場)

閉 会 午後六時五十八分閉会

○議長(林 豊君) お諮りいたします。

本臨時会に付議されました案件はすべて議了されました。よって、会議規則第七条の規定により、本日をもって閉会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、本臨時会は閉会することに決しました。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第三十二号乃至議案第三十五号

一、日程の追加・議長辞職について

一、日程の追加・議長の選挙

一、日程の追加・副議長辞職について

一、日程の追加・副議長の選挙

一、日程の追加・安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員の補欠選挙

挙

一、日程の追加・千葉県競輪組合議会議員の補欠選挙

一、日程の追加・安房南部伝染病隔離病舎組合議会議員の補欠選挙

一、日程の追加・館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の補欠選挙

一、日程の追加・三芳水道企業団議会議員の補欠選挙

一、日程の追加・常任委員会委員の選任

一、会議時間の延長

一、日程の追加・議案第三十六号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 五十嵐 昇

館山市議会議長 林 豊

館山市議会副議長 菊 井 敏 博

館山市議会議員 横 溝 功

館山市議会議員 山 口 康

